

みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年3月10日 Fri No.944

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会
Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977
e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp



地域医療を考える会（白石）情報紙「なんてん」第9号より、以下抜粋

新しい白石市立病院 スタッフ「給与」 あまりにも低いのに驚く！ これでは私たちのいのち・健康も心配です？

<指定管理委託法人 仁誠会（奈良県）「基本給提示」>

昨年末、仁誠会が刈田病院の職員組合に基本給料を提示しました。この額は現在の給料に比べて、経験豊富な40～50代で月10万円以上も低くなるものです。

白石市としては、やむをえず3年間のみの現給保障（1年目100%、2年目75%、3年目50%、但し期末手当の保障なし）予定とのことです。

しかし、現在の引き続き異常物価高で、これまでになく民間でも給料引き上げが進むなか、短期間の現給保障だけでは、安心して生活できないとして、大量離職も心配されるどころです。

病院にとって医師の確保は最も大事ですが、しかし医師を支える有能な医療スタッフの存在は欠かせません。

市の都合（財政が苦しい）で刈田病院が民営化せざるを得ない状況に追い込まれ、その責任は市にあります。医療スタッフに責任を負わせるのは筋違いです。

新しい病院でも医師の勿論のこと、医療スタッフが安心して働くことができなければ、私たち市民の命と健康な守れません。



機関紙「なんてん」の載らないところを補足すると

病院で働く職員は過酷な現実が！

公立刈田総合病院の職員は、公設民営化に伴いこれまでの公務員の身分が失われ、希望すれば指定管理者となる医療法人の再雇用という道筋が示されているものの、昨年末には詳細な就業規則等を示されないまま「離職面談」が行われ、再雇用・退職を自ら判断することが迫られました。再雇用を希望しても「不採用」通知された方もでています。

白石市の対応に対し、大きな怒りの声が挙がっています！

病院の労働組合（自治労）も全国に呼びかけ「公立刈田総合病院で働く職員の処遇確保を求める緊急署名」を取り組み、個人署名7,243筆、団体署名1,268団体の署名簿を山田管理者（白石市長）に提出しています。

▶▶▶ スマホでも見やすくなって！毎日更新中！社保協Blog：<https://syahokyo.blog.jp/>